

令和4年度第2回
佐世保市総合計画審議会
会議要旨

【日 時】 令和5年3月16日(木) 13:30～14:40

【場 所】 佐世保市役所本庁舎5階 庁議室

会 次 第

1. 開会
2. 委員の委嘱（委嘱状の交付）
3. 市長挨拶（企画部長代読）
4. 委員紹介
5. 会長、副会長選出
6. 会長挨拶
7. 議題
（1）佐世保市総合計画審議会の委員の役割・運営方針について
（2）デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要説明について
8. 閉会

○出席委員 18名
欠席委員 1名

【資料】

- ・資料1 佐世保市総合計画審議会の委員の役割
- ・資料2 デジタル田園都市国家構想総合戦略について
- ・参考 広報させぼ 2021年12月号「IR誘致がもたらす6つの効果」

会議要旨

1. 開会

2. 委員の委嘱（委嘱状の交付）

3. 市長挨拶（企画部長代読）

4. 委員紹介

5. 会長、副会長選出

事務局提案のうえ、出席委員の互選により西岡会長、飯田副会長を選出。

6. 会長挨拶（副会長から挨拶）

コロナ禍により苦しんだ3年間であったが外国船クルーズの受入再開など少しずつ明るい展望も見えてきた。新たな挑戦が始まる年である。

市の礎を築いてきた先人の想いを受け、今を生きる私たちは佐世保の街を輝かせ続けなければならないという使命がある。

一方で人口減少や少子高齢化など多くの課題も抱える地域でもあるが、様々な分野に精通される委員の見識と経験を忌憚なくご意見を賜りたい。との趣旨のご挨拶。

7. 議題

(1) 佐世保市総合計画審議会の委員の役割・運営方針について

(2) デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要説明について

～事務局より内容説明～

【宮地委員】

資料2のデジタル田園都市国家構想総合戦略の概要中に記載のある中小中堅企業DXとはどのような施策となるのか。中小中堅企業のDX化を図ることで地方に仕事をつくるとのイメージはつくが具体的内容が見えづらい。

【事務局】

デジタル化を通じた生産性向上や付加価値を創出する施策となる。国としてはその下支えとして、デジタル人材の育成・確保を行うこととされている。このような背景にはデジタル人材が首都圏に集まっており、地方に高度なデジタル人材がいない現状が課題となっている。

例えば、中小中堅企業のDX化により生産性向上を図る場合においては、地方でもデジタル人材を育成し、地域資源を活かしながら世界にも通用する物流システムを作るなど日本中、世界中で活用できるDXを創出する動きなどが一例である。

【宮地委員】

説明があったような取組を総合計画に結び付けていくことになっていくと思うが、中小中堅企業が単独でDX化していくためにはイニシャルコストが大きな負担となるが行政の支援も方策に検討いただきたい。

【事務局】

DX化へのデジタル人材が不足しているのではないかとこのことで、官民連携のプラットフォームを構成し、高度なデジタル人材を育成する取組の予算を現在、議会へ審議いただいているところ。

現時点においては、総合計画後期基本計画の素案を委員の皆様へ提示できていないため、詳細の説明ができないが令和5年度には本市のDXやデジタルを活用した取組等々をご説明していきたい。

【藤川委員】

P T Aの立場からご報告と関連した話を述べたい。小中学校には3年前にG I G Aスクール構想により1人1台タブレットパソコンが配布され、配布当初はコロナ禍の影響も相まって、現場の子供たちと先生方がかなり混乱していた。

そこから3年が経過し、先生方は慣れ、子どもたちはそれ以上に慣れ親しんでいる状況である。子どもたちの吸収力は凄まじいものがあり、学校教育が人材育成の下支えとなると考えるため、是非、総合計画を策定する際に学校教育の方策を十分に検討し、取り入れてほしい。

【事務局】

子どもの吸収力の高さには、同様に小学生の子を持つ親として同感するところ。特に理科の分野での解明度は従来の教室での実験でしか体験できなかったものが子どもの関心があればすぐにどこでもタブレットパソコンで検索し映像でチェックできるところに利便性を感じている。

学校教育をより効果的に行っていくためには先生が生徒にいかとうまく説明できるかが課題と捉えている。本市には学校の教員のための研修センターを持っており、定期的に専門家から教員へ研修を実施している。また、I C Tアドバイザーを各小中学校に派遣して、より具体的に先生へ教えていく取組を実施している。このような取組を継続して行っていくと考えているところ。

【川原委員】

資料2のデジタル田園都市国家構想総合戦略の概要中に記載のある関係人口・二地域居住等の推進とはどのような取組を含むものか説明をいただきたい。

また、同資料の地方大学の魅力向上に関して、行政から見る地方大学の魅力とはどのようなものか見解を伺いたい。

【事務局】

1点目につきましては、今現在取り組んでいる例であれば五番街のすぐ横にある新みなとターミナルにおいて、広域圏の移住サポートプラザを開設し、広域連携都市12市町を対象に移住をサポートする業務を行っている。このことを前期基本計画から後期基本計画に引き続き活かしていきたいと考えている。

また、広域連携都市とも連携しワーケーションに取り組みながら、関係人口の創出にも取り組んでいく予定であり、さらに充実させていきたい。

2点目につきましては、自治体にとって、地方大学はすごく魅力が詰まっている。その一つに若者が集まり、研究機関を持つという強みがあることである。現在、地方大学と連携協定を締結させていただいているところであり、自治体は大学にフィールドを提供し、大学は研究を担っていくとの関係性を活かし、取組を充実させていきたいと考える。

【川原委員】

地方大学の魅力の向上は私たちにとって命題であると認識している。行政としても応援していくとの理解でよろしいか。短期大学では専門人材の育成を主に行っており、市内に卒業生を雇っていただけるところがないと地元定着が進まない。是非、よろしく願います。

【事務局】

引き続き、協力させていただきたい。こちらこそよろしくお願い申し上げます。

【深堀委員】

答えられる範囲で結構だがIRの認定の目途は如何か。IRの是非によっては、総合計画の方向性が全く違うものとなるのではないか。今の状況をご説明いただきたい。

【事務局】

昨年4月に国へIRの区域整備計画の申請を行い、その後、国の審議会が20回ほど開催されているところ。今年の3月にも審議会が開かれているがその内容については、一切聞かされていない状況である。いつ審議が終了するか不明ではあるが本市としてはできる限り早い認定の結果を聞けることを期待している。

県も同様であるが市においては、組織を増強し、結果が判明次第、即事業推進で

きるよう人、予算の準備を整えているところ。

【深堀委員】

県内の会合に参加すると県南の各市町は新幹線開業という起爆剤があり、今すごく生き生きと話される。私としてはすごく寂しい想いをしている訳であり、是非、I Rについて、しっかりと進めていただきたい。

【飯田副会長】

本日は新たな任期での第1回目の会合であり、本格的な審議は次回以降になってこようかと思われる。新しい市長のもと新たな考えを盛り込んだ計画案が事務局から示されると思うため、次回以降に委員皆様の自由闊達な意見をいただければと思う。

他にご意見がないようであれば、これで終了する。

8. 閉会

以 上